

# 知っていますか？ 村の“ごみ”事情

～燃やさず資源に！ ごみの減量・分別にご協力ください～



あなたは1日にどのくらいのごみを出しているでしょうか。今回お知らせする内容を参考に、日々の生活から発生する“ごみ”について改めて考えてみませんか。

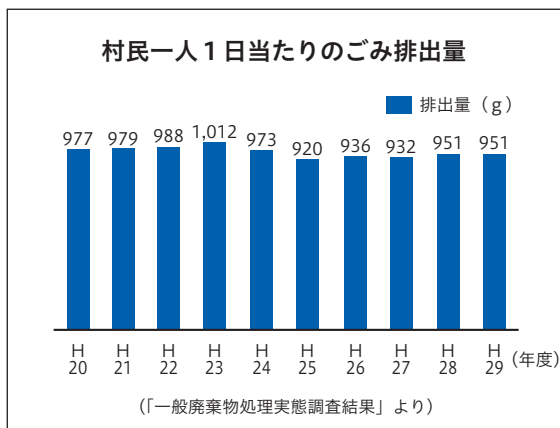
【問い合わせ】環境政策課ごみゼロ推進室(清掃センター内 ☎282-7289)

▲プラスチック製容器包装を選別する様子(清掃センター)

## 混ぜれば“ごみ” 分ければ“資源”！

考えてみよう  
951グラムの重さ

村民一人から、日々どのくらいのごみが出ているのでしょうか。村内の家庭・事業者(産業廃棄物を除く)から出たごみ・資源物の合計は、約1万3千トン(平成29年度)。これをともに平均すると、村民一人につき1日当たり951グラムの“ごみ”



取り組んでいますか？ごみの分別

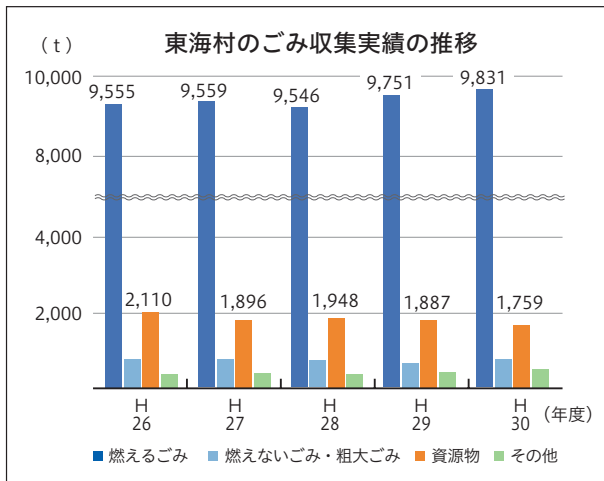
ごみを出すときの基本的なルールは、ごみを種類ごとに分ける「分別」です。分け方は各市町村によって異なりますが、村では現在「燃えるごみ」「燃えないごみ」「粗大ごみ」「資源物」の4種類としています。

ごみを分別するときには重要なのは、燃えるごみ・燃えないごみを分別すること(金属・家電類は焼却できません)と、資源物を分別することです。特に、紙製品、缶、瓶類などは、本来は資源物としてリサイクルできるものですが、燃えるごみ・燃えないごみに混入している場合が多くあります。一見、捨てるだけの“ごみ”と思われるものも、きちんと分別して資源物として出すことで、新しい商品・原料等として生まれ変わります。

村のごみ収集実績は…

村では、平成12年度から資源物の回収を開始し、まもなく20年を迎え





ます。この間、プラスチック製容器包装の分別開始や、ごみ袋の有料化等の大きな転換点があり、一時は燃えるごみの量は大きく減少しましたが、近年再び増加する傾向にあります。逆に、資源物の収集量は減少傾向となっています。

一人ひとりが「ほんの少しだけ」意識することで、焼却するごみの量を減らすことができます。焼却する際の二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)や埋立灰の発生量を抑えることで、温室効果の抑制や埋立灰の減少だけでなく、ごみ処理費用の削減にもつながります。引き続き、ごみの減量・分別にご協力ください。

### 実行してみよう！ 3Rチェックシート

**まずは Reduce !**

- 必要のない包装・レジ袋は断り、マイバック等で買い物する。
- 詰め替えのできる製品を選んで購入する。
- ペットボトル等は使わず、水筒を使う。
- 買い物に行く前に冷蔵庫の中身を確認し、食べきれぬ量だけ買う。
- 食べ残しが無いよう、分量を工夫する。
- 生ごみは水切りをし、容量を減らして出す。

**次に Reuse !**

- 壊れたものは簡単に捨てずに修理して使う。
- サイズの合わなくなった子ども服は、兄弟に着せたり、知り合いに譲ったりする。
- フリーマーケットやバザーを利用する。
- 不要になったものを再利用する(歯ブラシを掃除に使う等)。

**最後に Recycle !**

- 資源物を分別し、資源回収に出す。
- リサイクルされた製品を選んで使う。
- 生ごみは処理機等を使い、堆肥化して使う。

「ごみを減らす3つのR」

3R(スリーアール)という言葉をご存じですか。これは、ごみを減らすことで、環境への負担を少なくし、限りある資源を有効に繰り返し使う、循環型社会を実現するためのキーワードです。日常生活の中で意識し、できることから始めてみましょう。

次ページでは、すぐに実行できる「ごみの分別のポイント」について紹介します。また、8月3日(土)に開催する「とうかい環境フェスタ2019 With キャンドルナイト」では、不用品のリユースに関するブース等がありますので、ぜひお越しください。

チェック!

**Reduce リデュース**  
ごみの発生、資源の消費をもとから減らすこと

**Reuse リユース**  
くり返し使うこと

**Recycle リサイクル**  
資源として再び利用すること

さんまるいちまる **3010** 運動

日本における食品ロス(食べられるのに捨てられてしまう食品)は、国民一人当たりが毎日茶碗1杯分を捨てている量に匹敵します。3010(さんまるいちまる)運動は、宴会時の大量の食品ロスを減らす取り組みです。

一人ひとりが「もったいない」を心掛け、楽しく・おいしく宴会を楽しみましょう。

**< 乾杯後30分間 > は席を立たずに料理を楽しみましょう!**


**< お開き10分前 > になったら、自分の席に戻って再度料理を楽しみましょう!**

# 資源物を出すときのポイント


村では、資源物を16種類の分別により収集しています。適正なりサイクルを行うためには、種類ごとの出し方を守ることが大切です。今回は、主な分別のポイントを紹介します。詳しい内容は「ごみ処理ハンドブック」(役場総合窓口、清掃センターで配布)をご覧ください。



## プラスチック製容器包装

- ▽「プラマーク」を確認。
- ▽汚れを洗い、乾かす。
- ▽乾いてから、透明か半透明の袋に入れる。
- ▽プラマークが付いていないプラ製品や、汚れの取れないものは、燃えるごみへ。
- ▽プラ製電子機器は絶対に混ぜない(火災発生の恐れあり)。

## ペットボトル

- ▽「PET1」マークを確認。
- ▽キャップ・ラベルを外し、水洗いし、乾かす。
- ▽製品の表示を確認し、キャップ・ラベルを分別する。



## 蛍光灯・電球、水銀体温計

- ▽蛍光灯・電球は、購入時のケースに入れ、束ねて出す。白熱電球・LED電球も出せる。
- ▽水銀体温計は、蛍光灯などと同じ回収ボックスへ。「体温計」と袋に書くなど、中身が分かるようにする。

## 乾電池

- ▽乾電池に限る。
- ▽ボタン電池・ニカド電池・リチウムイオン電池等は村では回収できない。※処分方法は、リサイクル協力店や販売店等にご相談ください。

## 空き缶

- ▽「アルミ」「スチール」マークを確認。  

- ▽異物(タバコの吸い殻、ストロー等)は取り除き、水洗いする。
- ▽飲料缶のほか、同マークがあれば缶詰やお茶の缶等も出せる。

## スプレー缶

- ▽最後まで使い切り、空にする。
- ▽安全な屋外でガス抜きキャップを使う等、ガスを抜く。穴は開けない(不適切な穴開けにより、爆発等の恐れあり)。

## ガラス瓶(無色透明・茶色・その他の色)

- ▽キャップを外し、水で洗う(外れにくい中栓やラベルは外さなくて良い)。
- ▽金属製のキャップは、空き缶として出せる。
- ▽色別(無色透明・茶色・その他)に分ける。
- ▽飲料用の容器に限る。油もの、化粧品、食器、耐熱ガラス等は燃えないごみへ。
- ▽ケース付きのビール瓶と一升瓶はケースごと出せる。


## 雑誌、書籍等

- ▽ひもで十字に縛る。
- ▽コピー用紙やノートも出せる。
- ▽クリップは必ず外す。


## 新聞、折り込みチラシ

- ▽ひもで十字に縛る(袋詰めの場合も)。
- ▽折り込みチラシ以外のパンフレットやカタログ等は「雑誌・書籍類」として出す。


## 紙製容器包装

- ▽束ねたり、縛ったりなくて良い。資源ステーションの回収ネットに直接入れる。

## 段ボール

- ▽平たく伸ばし、ひもで十字に縛る。
- ▽段ボール以外は一緒にしない。

## 紙パック

- ▽洗って乾かしてから、切り開く。
- ▽1000cc パックは30枚、500cc パックは45枚に束ねる(束にならない端数も出せる)。
- ▽中が銀色の物は燃えるごみへ。

## 衣類等

- ▽透明か半透明の袋に入れ、口をしっかり結ぶ。
- ▽ぬいぐるみ・座布団等の綿入り製品、革製品、汚れているものなどは燃えるごみへ。

- ⚠️ 家電類を燃えないごみ・粗大ごみとして出すときは、必ず電池を取り除いてください。
- ⚠️ 汚れている等、不適正に出されたものはリサイクルできないため、処分されます。

### 注意

#### ごみを出す場所

「燃えるごみ」「燃えないごみ」「粗大ごみ」はごみ集積所へ、「資源物」は資源ステーションへ、決められた場所に出しましょう。

▽収集は、収集日の午前8時30分から開始します。時間までに必ず出してください。

▽出す場所とごみの種類が異なる場合は収集できません。※資源物はごみ集積所には出せません。

▽ごみ集積所は、利用者の方々が維持・管理しています。自分の利用する集積所以外には出せませんので、ご注意ください。

▽ごみ集積所や資源ステーションに、事業系ごみを出すことはできません。処理方法については、清掃センターへお問い合わせください。